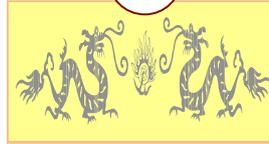


# 郷土摂津 いにしえ通信

第95号



平成18年3月1日

発行

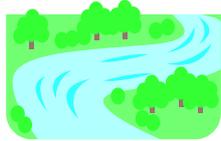
摂津市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課

〒566 - 8555 摂津市三島一丁目1 - 1

(06)6383 - 1111 (072)638 - 0007

ホームページアドレス

<http://www.city.settsu.osaka.jp/>



## ふるさとの川「淀川」

～川は流れる悠久の歴史の中で～

人類が出現する以前の原始・古代・

中近世から現代まで時代別に淀川

と摂津市の関わりに迫ります。

第12回

**石山合戦はじまる** 元亀元年（1570）、信長は近江の浅井長政や越前の朝倉義景の討伐におもむき、6月28日には近江姉川で大激戦のすえ浅井・朝倉連合軍を大破しました。ところがこれを機に、三好三人衆らは阿波から再び反撃の軍を進め、7月下旬には摂津に入って野田・福島に陣取りました。これを聞いた信長は、8月20日に岐阜を発ち23日夕方には京都に着き、ついで25日京を発ち、枚方を経て、26日には天王寺に本陣を置きました。先手の軍政は、渡辺・津村・難波・木津・今宮などに陣取りました。27日には信長方の摂津の和田伊賀守惟政・茨木佐渡守重朝・池田筑後守勝正・伊丹兵庫頭親興らも、天満の森に陣取りました。室町幕府將軍足利義昭も30日に京を発ち9月3日に中嶋の堀城に入城しました。9月に入ると、戦況は活発化し、12日信長は義昭とともに野田・福島に近い海老江に陣を進め、三好党を囲み大砲と鉄砲で猛攻を加え、野田・福島は陥落の危機にさらされました。このころ、三好党が破れたら次は本願寺が危機に貧する風聞が高まっていました。

本願寺11世顕如は戦国動乱にさいし中立の立場を守ってきましたが、信長から五千貫の矢銭を課されたうえ、蓮如以来の要害石山本願寺明け渡しを迫られるなど、その圧力に耐えかねていました。しかも、いまや本願寺滅亡の危機を前にして、ついに信長を法敵とする姿勢を明確にしました。顕如は全国各地の門徒に、協力を拒む者は破門にするという強硬な檄文を配布して、総決起をうながし、また三好党や浅井・朝倉とも密接に連絡をとって信長との決戦にふみきりました。

9月12日の夜半、本願寺では寺内の鏡を打ち鳴らし、鉄砲を放ちながら信長勢を急襲しました。これが11年にわたる石山合戦の開始となりました。

**信長と江口・一津屋** 本願寺の参戦で信長が手を焼いているのを知ると、浅井・朝倉は京都進出を企て、20日には近江坂本まで進撃しました。そこで信長は、野田・福島を解き、23日に京都へ引き返し、浅井・朝倉に抗戦することにしました。情勢不利のときに大軍を撤退するのは困難なことであり、そのうえ中津川・淀川を徒渉せねばならなかった信長は、かなりの苦勞をしています。しかし、その先陣は無事であったようです。「廿一日の早暁、信長の先陣淀川に沿ひて上り、一屋の附城に軍政を籠め置き、江口に方舟を掛け、静々と引取りけり。〔陰徳太平記〕」廿一日とあるのは廿二日の誤りであると思われます。「一屋の附城」とあるのは、摂津市域の一津屋にあったものと思われます。先陣は江口において船をならべ船の橋をかけて渡ったものでしょう。

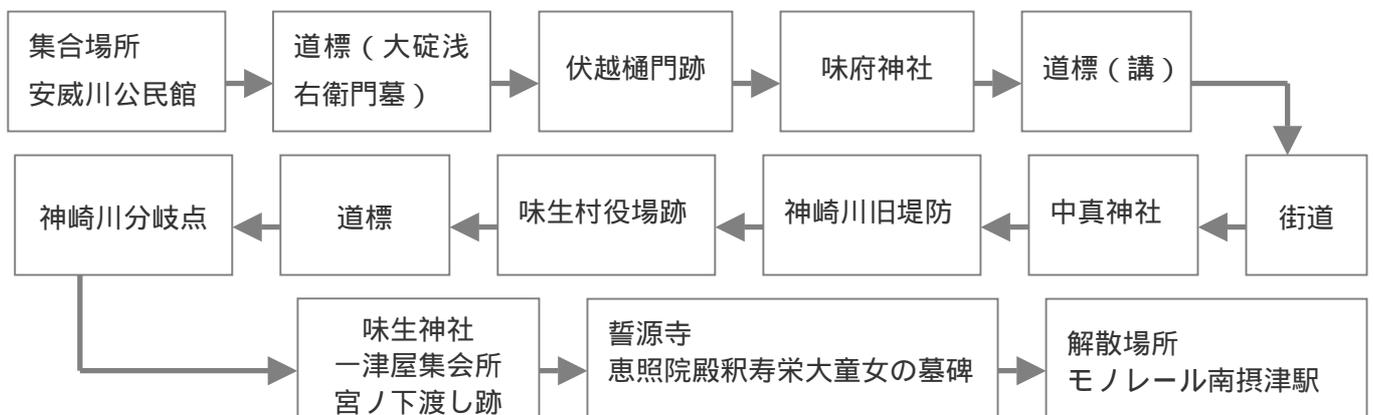
信長の本隊は諸書によると、23日に天満の森を発して中津川に至ったところ、その船の橋は三好方が夜中に切り放して流してしまっていたので、みな徒渉しなければならず難儀したといわれます。（裏面へ）

その点について『総見記』（信長の伝記を編集した書、元禄 15 年刊）は、義昭も信長も水練の上手であったから難なく泳ぎ渡ったが、流水に溺れる者もあったと記しています。しかし、この日だけは流水が少なかったと記す書もあるので、これは『総見記』の脚色であるかもしれません。ついで江口に達すると、ここの船もすでに切り流されていました。船は隠されていたともいいますが、とにかく江口でも徒歩を余儀なくされたのです。『信長公記』（信長の側近太田牛一著）には、「彼江口と申す川は、淀宇治川の流れて、大河漲下り滝鳴って冷じき様体なり。総じて昔年より舟渡しにて候なり。猛勢の御人数差懸り候処、一揆蜂起せしめ、渡りの舟を隠置き、通路自由ならず、稲麻竹葦などの如く、過半竹鑓を持って、江口川の向を大坂堤へ付いて喚き叫ぶといへども、異なる事なし。信長川の上下懸まわし御覧じ、馬を打入り、川を渡るべき旨御下知の間、悉く乗入候の処、思の外浅く候て、かち渡に将兵難なく打越候き。」と記しています。蜂起した一揆もさして攻撃してこなかったようですが、『陰徳太平記』（通俗的な戦国通史、享保 2 年刊）などでは、一揆は「信長江口を渡し給ふと見るや否や、兵鼓を搦ち螺を吹き、真黒になって攻め懸る」といい、またこの日だけ水量が少なかったことについて「江口近辺の上下万民の者」は「奇特不思議の思」をして信長の運の強さを感じたとしています。

## ふるさと摂津講座 味生の歴史散策

平成 18 年 3 月 15 日（水）

集合時間：午後 1 時 解散時間：午後 4 時予定



\* 散策ルート \*

講師はふるさと摂津案内人・ふるさと摂津案内人養成講座修了生です。  
定員は 60 名。参加希望者は申し込み不要です。当日、集合場所へお越し下さい。  
雨天決行。ただし注意報・警報が発令された場合は中止とします。

生涯学習情報誌第 26 号 **道・楽・人** に載りました

「道・楽・人」をご存じですか。これは、大阪府立文化情報センターが公共施設に 1 万 3 千冊配布している雑誌です。年 2 回発行されており、7 ページには生涯学習されておられる団体及び個人を紹介されている欄があります。そのページに「ふるさと摂津案内人」が掲載されました。きっと、ふるさと摂津案内人の頑張りが、大阪府立文化情報センターの「道・楽・人」編集者の耳に届いたのかもしれない。これからも、ふるさと摂津案内人に生涯学習を頑張ってくださいと思います。